

## 放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表: 2024年3月8日

事業所名 アフタースクールスマイルステーション谷町

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		・パーティションを利用して、個人のスペースを確保している。	保護者の送迎や子どもの入れ替えの時間でスペースの確保が難しい時があるので、順序よくできるように改善していく。
	2	職員の配置数は適切である	○		・適切に配置している。支援が良くなるよう、専門職の職員を増員している。	余裕ある体制にするため、アルバイトなど職員を増員している。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		○	・バリアフリーを要する利用者はいないが、必要に応じて手助けはしている。	・設備のバリアフリー化は難しいが、職員がサポートすることで快適に過ごせる環境を作っている。 ・いまのところ特に支障はないが、玄関にスロープを付けるなど工夫できるところはある。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		・職員会議等で支援や業務について話しているほか、課題が見つかり次第実行している。	これからも、常に業務改善を進めていく。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		・保護者からの意見を参考にしながら取り組んでいる。 ・アンケートをもとに改善するため職員間で話し合っている。	常に保護者の意向等を大切にサービスにあたりたい。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		・HPやずまいる通信に載せている。	ホームページや会報で公開する予定である。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○	・相談支援員や学校関係者に来所していただき話し合っている。 ・第三者による外部評価は行っていない。	第三者による外部評価は行っていないが、相談支援専門員や学校関係者などには適宜見学に来ていただいている。
適切な支援の提供	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		・発達に関することから防災など多岐にわたって行っている。	研修の機会を確保し、発達理解や対応法、心理学等について学んでいる。
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		・職員全員が担当会議に出席している。 ・モニタリングを行い、保護者の意見や子どもの様子を見ながら計画の作成をしている。	放課後等デイサービス計画の作成の折には、子どもと保護者のことを十分に話し合い、支援に活かせるようにしている。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		・標準化されたアセスメントツールはないが、アセスメントの取り方は打ち合わせている。	今後、標準化されたアセスメントツールを導入したい。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		・職員間で定期的にプログラムの立案や見直しをしている。	・活動プログラムが子どもにとって適しているかどうかを常に考えたり工夫したりしながら立案している。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		・適宜、支援計画と照らし合わせながら、プログラムを工夫している。	今後も常にプログラムを工夫してより良いものにしていきたい。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		・長期休暇中は日ごろ取り組んでいない課題(SSTなど)に取り組んでいる。	これからも長期休暇には日常と違う支援ができるよう、工夫していきたい。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		・個別をメインで取り組んだ後は集団遊びなどの活動を取り入れている。	個別がメインだが、集団での活動も組み合わせ、集団で関わる機会を設けている。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		・ツールを使用し、具体的な引継等を行っている。 ・毎日打ち合わせを行い、業務や利用者について連絡し合っている。	必ず朝礼をして、気になることなどあれば共有し、内容や役割分担について確認している。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		・ビジネスツールの活用や口頭で気になったことを報告し合い共有している。	気になった点や良かった点など共有し合い、ビジネスツールにも書き込んで周知している。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		・支援報告や実績記録を必ず書いている。	支援報告書のほかに、ビジネスツールにも記録を残している。また、実績についても、ソフトに記録保存している。
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		・半年に1回モニタリングを行い、支援の内容や方向性を話し合っている。	保護者の方には必ず面談に来て頂き、話し合いのうえ、放課後等デイサービス計画の見直しをしている。	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせることで支援を行っている	○		・個々に応じて基本活動を複数組み合わせている。	特性によって違うが、基本活動を複数組み合わせるよう、支援を行っている。	

関係機関や保護者との連携	20	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		・児童発達支援管理責任者を中心にそれぞれの保護者や子どものニーズに対応できるよう参画している。	児童発達支援管理責任者を中心に、子どもの状況に精通した最もふさわしいものが参画できるようにしている。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		・学校行事予定表やHPを見るとともに電話等でも情報共有をしている。 ・保育所等訪問により密にコミュニケーションを取っている。	学校の情報については必要に応じて、学校と連携しているが、もっと密にしていきたい。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	/		・医療的ケアが必要な子どもは、現在はいないが、心配な子どもはいるので、常に連絡を取り合っている。	医療的ケアが必要な子どもは、現在はいないが、もし入所したら連絡体制は整えていくべきだと思う。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		・子どもの特性に応じて、必要性を感じたときは情報共有している。	今後も必要に応じて相互理解していく。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障がい福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○		・卒業した利用者がまだいないので、該当する子がいないが、必要に応じて提供していく方針だ。	現在、そのような事例はないが、必要に応じて情報提供していく。
	25	児童発達支援センターや発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		・専門機関の研修を年数回受けている。	今後もサービス向上のため、研修の受講を進めていく。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○		・希望する保護者がいないため行っていない。	障がいのない子供との活動は特に行っていない。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○		・中央区のほか、天王寺区や生野区への協議会へも参加し、情報の共有や交流を図っている。	中央区の協議会が開催されたので、参加した。これからも情報交流のために積極的に参加していきたい。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		・日頃は送迎時や支援報告書、LINEや電話等で連絡し、保護者と状況や課題について話し合っている。	支援が一方向的にならないよう、常に確認や連絡を取り合うようにしていく。
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○		・必要に応じてペアレント・トレーニングを行ったり、相談に応じたりしている。	今後、ペアレント・トレーニングを進めていきたい。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		・契約時には丁寧に説明している。	運営規定については、玄関に置いて、いつでも閲覧できるようにしている。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		・相談に対して個別に対応したり、集団で相談会を行っている。	いつでも気軽に相談に応じられるよう、毎月の会報で呼びかけていく。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		・保護者会として、進路相談会や子育て相談会などを開催し、保護者同士で話す時間も設けている。	保護者会は今後も定期的に開催していきたい。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		・迅速に対応し、今後どのようにしていくべきかを話し合い、再発防止に努めている。	苦情を真摯に受け止め、体制や支援の改善点として捉え、今後に活かしていく。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		・毎月、すまいる通信を発行し、SNSを活用して相談会のお知らせ等を行っている。	SNSの活用をさらに広げていく。
	35	個人情報に十分注意している	○		・個人情報の取り扱いには細心の注意を払っている。	個人情報の取り扱いについては、今後も細心の注意を払っていく。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		・子どもだけでなく話を聞くのではなく、保護者からの意向も聞いている。	これからも意思疎通のために配慮をしていきたい。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に関わった事業運営を図っている	○		・望んでいない保護者が多いため実施していない。	望んでいない保護者が多いため、他の事業所や地域住民の方と交流する活動は行っていない。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○	・職員会議等で見直すとともにマニュアルを保護者が見やすい場所に設置している。	契約時に説明しているが、十分に伝わっていない可能性もあるので、これからも広報していく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○	・避難経路を確認したり、動画を見て定期的に避難訓練を行っている。	ハザードマップを掲示したり、避難誘導の方法を教えたりしているが、徹底していきたい。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○	・毎年、年2回以上、職員の研修を行い防止に努めている。	虐待防止委員会の体制を整え、研修を行い、防止に努めている。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○	・身体的拘束を行うことはないが、もしやむを得ず行う場合の条件は組織的に決定している。	そのような事例は今のところないが、該当する子供がでた場合、保護者との話し合い、了解のもとに支援計画に記載する。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○	・食べ物は提供していないが、重いアレルギーがある際は、保護者の申し送りに基づいて対応している。	食べ物は提供していないが、アレルギーについては保護者からの情報を得て対応していきたい。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○	・適宜、事例集を作成し、共有している。	ヒヤリハットの事例が出ないよう、日ごろから気をつけている。